

# HV2トトラックを導入

## 中田商事 若年労働力確保へ

【三重】中田商事（中田純一社長、三重県伊賀市）は3月28日、新規導入したハイブリッド（HV）2トトラックを公開した。普通免許しか持たないドライバー

も運転が可能で、人材の有効活用や若年労働力の確保に役立てる。

2006年に初導入して以来、年間1両のペースでHV車を増車。現在はHV

平ボディ車6両を保有。営業用普通車もHV3両、電気自動車（EV）1両を配置するなど、低公害車両を積極的に取り入れてきた。中田社長は「顧客の評判は

普通でも運転可能なHV2トトラック



非常に良く、営業面でもプラスになっている」と話す。新たに導入したのは、いすゞ自動車製の2ト平ボディHV車で、変速機はオートマチック（AT）。車両総重量が5ト未満となる

限られてくるし、利益も少ないが、確実に需要はある。主に建設資材や空調関係の荷物で平ボディ車を活用してきた。比較的急な仕事も多いため、ドライバー確保が難しいケースもある

ため、AT車限定の新普通免許でも運転ができる。

「これまで環境対策やイメージアップでHV車を増やしてきたが、今回は若年層の人材確保に生かすため導入した。」

2ト平ボディ車の仕事は限られてくるし、利益も少ないが、確実に需要はある。主に建設資材や空調関係の荷物で平ボディ車を活用してきた。比較的急な仕事も多いため、ドライバー確保が難しいケースもある

という。「新普通免許しか持たない倉庫スタッフがトラックに乗れば、臨機応変に対応できる。人材の有効活用にもつながるので一石二鳥だ。女性の新卒1人を採用したが、『免許を取ったらトラックを運転してもらおう』と伝えている」

今春は中途入社も4人を採用し、さらなる業務拡大を進める。主力の運送事業に加え、自社工場での整備・車検の受注や、中古トラック販売事業なども強化する方針で、既に営業活動を展開。現在、策定している中期経営計画にも盛り込む予定だ。

中田氏は「時間給制度を導入して初の通期決算も増収増益の見込みだ。社内には『見える化』が浸透し、社員からのボトムアップ提案が増えた。今回の2トHV車と同様、人材をより生かすアイデアを今後も考えていきたい」と意気込む。

（星野 誠）